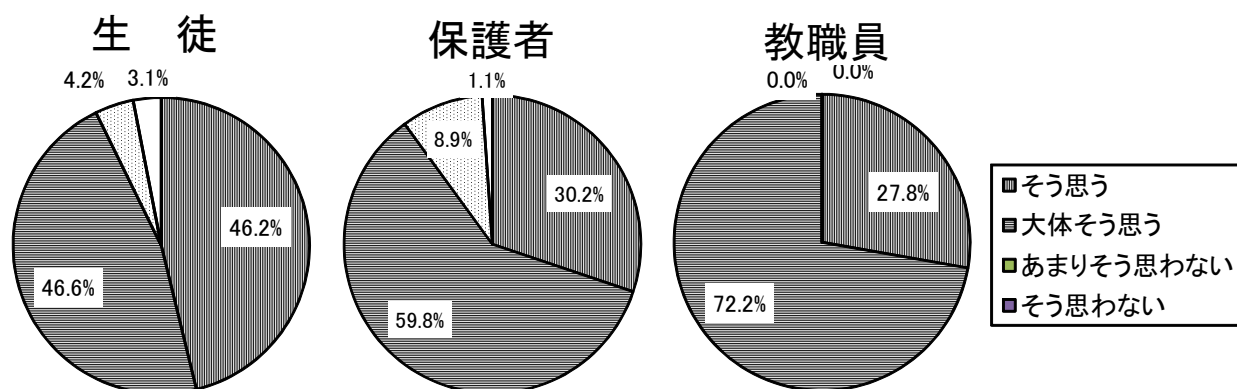


平成27年度(前期)学校評価アンケート結果の概要

京都市立安祥寺中学校

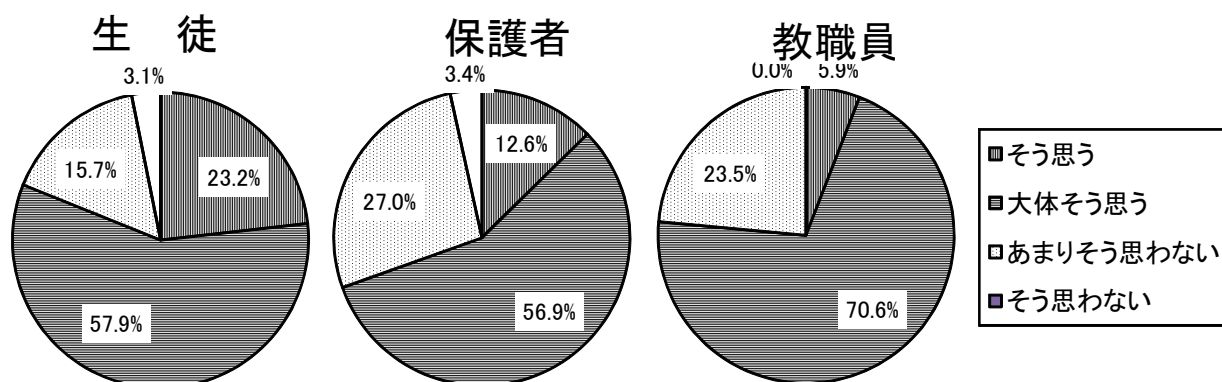
先日、保護者の皆様にもご協力いただいた「学校評価アンケート」の集約ができましたので、その結果の概要をお知らせします。同じタイミングで実施した生徒と教職員のアンケートと比較しながら傾向を見ていきたいと思います。なお、ここでは紙面の都合上、特徴のある項目に絞って掲載します。アンケートの全項目の集計結果については、本校ホームページに掲載していますのでご参照ください。

①「学校生活は楽しく充実している」



まず、アンケート項目の①「学校生活は楽しく充実している」を見てみましょう。生徒も保護者も教職員も「そう思う・大体そう思う」つまり、「楽しく充実している」と90%以上が肯定的な回答をしています。しかし、よく見ると「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している生徒・保護者と、教職員の間には10ポイント弱開きがあります。私たち教職員は少数ではあるもの「楽しく充実していない」と回答している生徒の声にも真摯に耳を傾け、この“差”を少しでもなくしていくよう努力していかなければなりません。また、「大体そう思う」という回答を「そう思う」に変えていく努力も必要です。

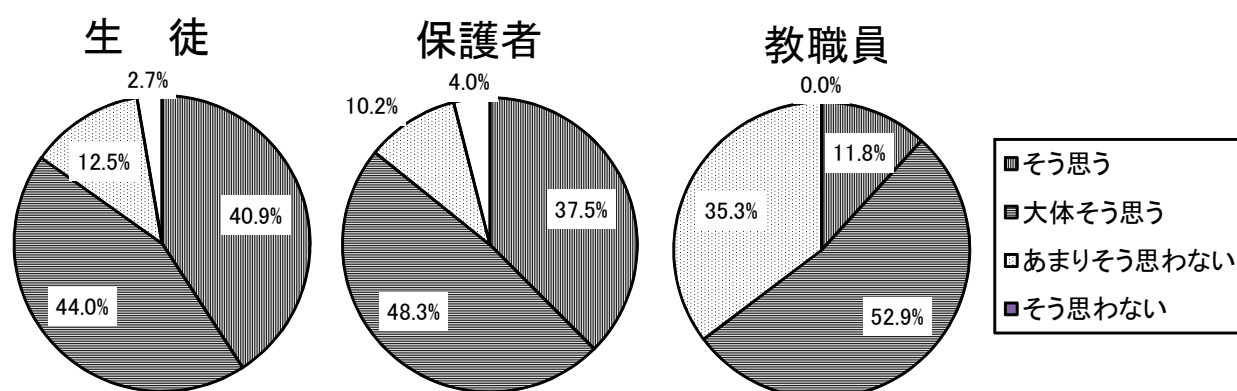
⑩「授業や学習内容を理解している」



次に、学習面についてのアンケートを見てみましょう。アンケート項目⑩「授業や学習内容を理解している」（左下に示したグラフ）の肯定意見「そう思う」と「大体そう思う」を合わせると、保護者が若干少ないものの三者ともほぼ同じ割合です。しかし、「そう思う」に注目すると、生徒の約23%が「そう思う」つまり、「理解している」と回答しているのに対し、保護者の見方は厳しく約13%。教職員はさらに厳しく約6%です。生徒は「理解している」つもりでも、大人は「しっかり理解していないのではないか？」あるいは、「本当に理解できているの？」と心配しているのかもしれません。いずれにしても、生徒のとらえ方に甘さがあるような気がします。生徒が本当に理解するように授業をし、それを定着させる家庭学習の習慣を定着していかなければなりません。

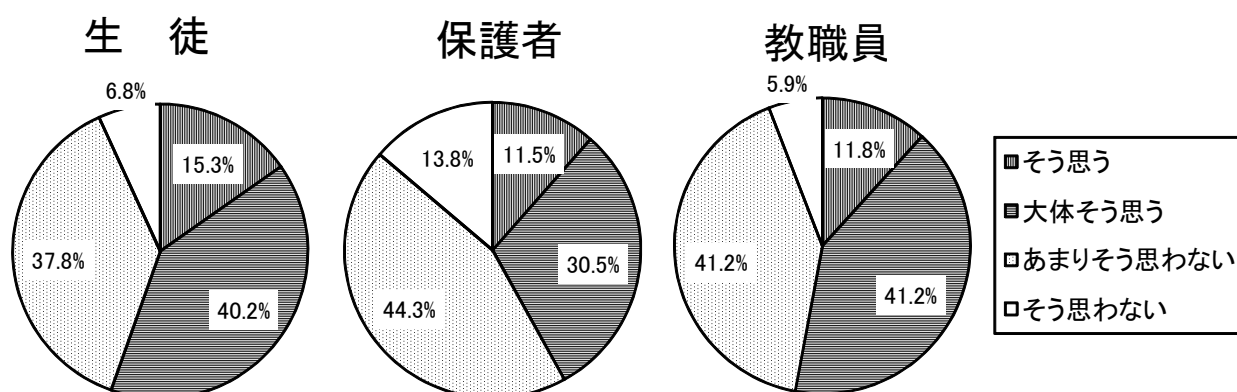
アンケート項目⑬「各教科の宿題はきちりとしている」はどうでしょう。

⑬「各教科の宿題はきちりとしている」



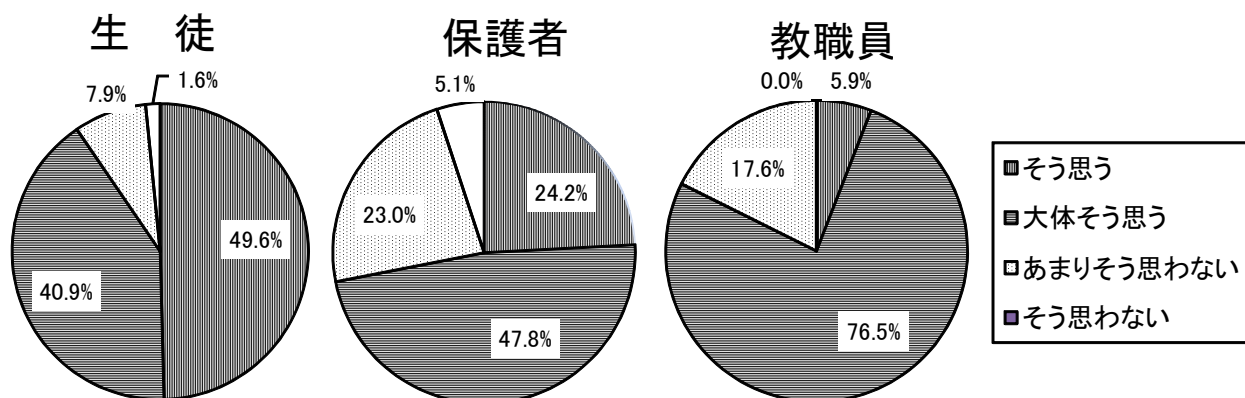
生徒と保護者は、ほぼ同じような傾向を示していますが、教職員の見方は違います。生徒と保護者の約40%が「きちりとしている」と肯定的に答えているのに対して、教職員は約12%です。逆に否定的な回答を見ると、生徒と保護者の「ちゃんとしていない」が約15%に対して、教職員は約35%となっています。肯定的な回答・否定的な回答の双方共に大きなずれがあります。「各教科の宿題はきちりとしている」かどうか、今一度、点検の必要がありそうです。

⑭「予習や復習など日々の家庭学習習慣が定着している」



⑭「予習や復習など日々の家庭学習習慣が定着している」の項目については、生徒と教職員の回答傾向がよく似ています。それに対して保護者の回答がやや厳しくなっています。これは、「もっと勉強してほしいという」願がそうさせているのでしょうか。否定的回答の「あまりそう思わない」と「そう思わない」に注目してみると、生徒と教職員が約45%、保護者が約60%と家庭での学習習慣の定着が不十分なことを示しています。学校ももっと家庭学習習慣の定着に力を入れなくてはなりません。学校と家庭が同じ目標を持って取り組んでいくことで、子どもたちの学力向上をめざしたいものです。

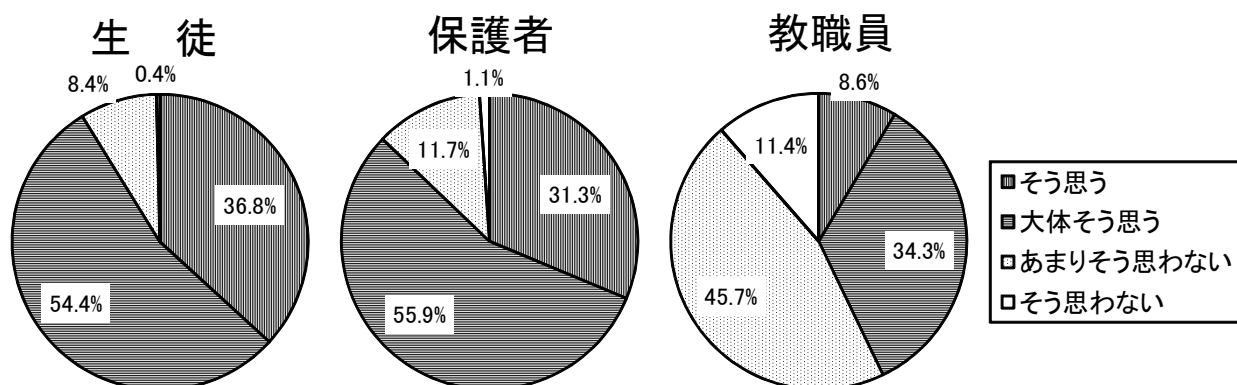
⑫「毎日の学習を大切にし、学力を伸ばしたいと思っている」



アンケート項目⑫「毎日の学習を大切にし、学力を伸ばしたいと思っている」の結果を紹介します。この項目は三者三様の回答傾向が見られますが、生徒の肯定的な回答が大人を大きく上回っているのが一つの特徴です。生徒たちは「学力を伸ばしたい」と思っているのです。保護者や教職員は「毎日の学習を大切にし」に課題を感じているのかもしれません。いずれにしても、学校での学習でも、家庭学習でも、生徒のやる気を引き出し、「学力を伸ばしたい」という思いにこたえていかなければなりません。

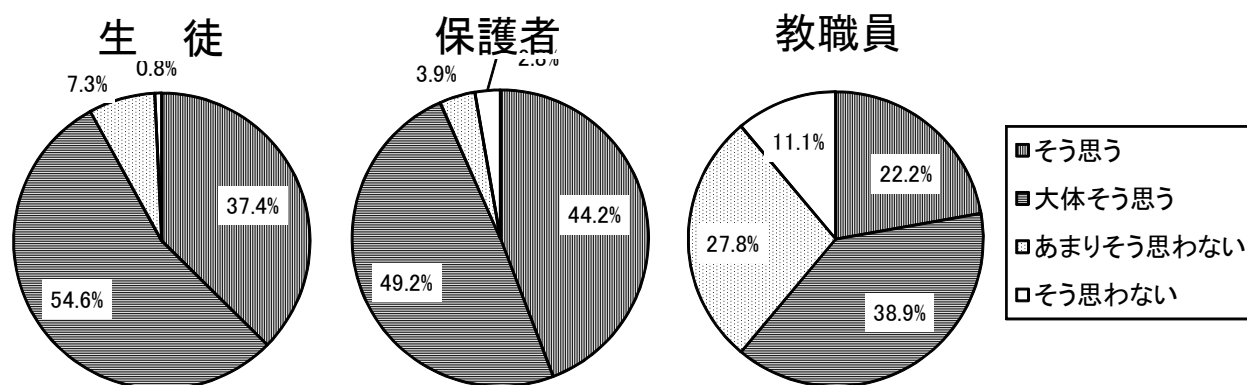
次に規範意識に目を向けましょう。アンケート項目⑤に「言葉遣いや服装などはきちんとしている」という問いがあります。結果は下のグラフが示しています。

⑤「言葉遣いや服装などはきちんとしている」



生徒の約91%が「そう思う・大体そう思う」と肯定的に答えているのに対して、教職員は約43%と半分にも及びません。この開きには、きっと教職員と生徒との求めるものに差があるのだと思います。生徒が「きちんとしている」と思っている、大人には十分だと見えないのです。ちなみに生徒と保護者の回答は同じような傾向を示していますが、それは、保護者の見方が甘いと言うことではなく、家庭での姿と学校での姿に違いがあるということかも知れません。家庭と学校が連携をして子どもを育てていくことが肝要です。

⑥「校則やその他の決まり事をしっかりと守っている」



次にアンケート項目⑥「校則やその他の決まり事をしっかりと守っている」に目を向けましょう。アンケート項目⑤と同様に、生徒の回答と教職員の回答に大きな差があります。生徒の約92%が「そう思う・大体そう思う」と答えているのに対して、教職員は約61%と約30ポイントの開きがあります。やはり、生徒のとらえ方が甘いと言わざるを得ません。ここでも保護者のとらえ方は生徒と似た傾向です。やはり、保護者に見せる生徒の姿と学校での姿に違いがあるのかも知れません。

アンケート項目の⑤・⑥の結果からみても、子どもたちの規範意識には甘さがあるようです。自分たちの行動をしっかりと顧み、きちんできているか、そうでないかの自覚を促さなければなりません。そして、自分の姿を確認した上で、生活面の見直し、規範意識を高める必要があるようです。回りの大人も規範意識の育成を意識しなければなりません。

- ◆ここに記しているのはあくまでも一つの見方です。もっと様々な角度から分析することが必要ですが、アンケート結果を読み解く手がかりにいただければと思います。
- ◆紙面の関係上お知らせするアンケート結果は以上としますが、本校ホームページにアンケート項目全ての結果を載せています。ご参照ください。
- ◆今回、前年度とは違う形式、違う内容で、学校評価アンケートを実施しました。この結果を今後の学校運営に生かしていきたいと考えています。アンケートの質問内容にも様々なご意見をいただいています。併せて今後に生かしていきたいと考えております。

ご協力ありがとうございました。